

MSドリーム

患者情報を暗号化

医療機関向けシステム開発

医療情報データベースの管理運営や社会調査事業などを手がけるMSドリーム（本社名古屋市中区那古野、浅野美香社長、開発事務所電話052・715・9339）は、セキュリティ機能を高めた医療機関向けの新システムを開発した。精神疾患患者を強制入院させる「措置入院」の必要性を判断する「精神保健指定医」（指定医）のニーズに対応。行政担当者やとりよするメールに含まれる、患者情報や画像などの守秘データを暗号化する。今夏にも発売する予定。2017年11月期は10機関程度の採用を目指す。

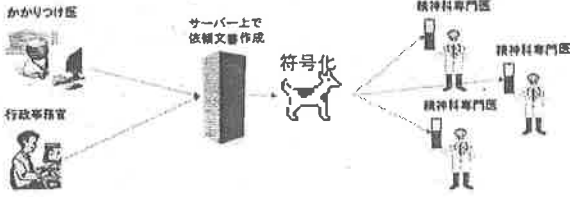
（水谷英志）

「措置入院」の必要性判断

14年度から研究に着手し、ことし3月完了して報告書を作成した。同社は、関係者が守秘性の高い文書情報を画像化するためのプロトコル（送信手順）を開発。今回のシステムは、その手法を応用した。

具体的には、かかりつけ医と行政事務官がサーバー上で依頼文書を作成後、システム上で符号化

MSドリームが提供するシステムのイメージ図



浅野美香社長

具体的には、かかりつけ医と行政事務官がサーバー上で依頼文書を作成後、システム上で符号化

たという。システムの価格はオープン。措置入院の処置にあたっては、都道府県知事が精神

保健指定医2人以上に診察を命じる。医療機関に入院させなければ、自傷や他傷のおそれがある場合、両医

師の判断が一致すれば、入院させることが出来る。本来の目的は、患者の治療だが、犯罪を抑止する働きがあるともいわれる。愛

知原健康福祉部障害福祉課によると、措置入院の件数はここ数年90件前後で推移する。

愛知県内の指定医は253人。同社は、業務の効率

化と機密保持に役立つシステムの需要は、高まっていると判断。指定医を抱える医療機関に採用を働きかけたい考えた。

MSドリームは、2008年設立。16年11月期の売上高は8千万円。従業員数は10人。

採用計画 来春5人。